

BOEは利上げと量的引き締めを決定 ECBも年内の利上げを否定せず、欧州の金利が上昇

2022年2月4日

BOEに追加利上げ観測、ECBに年内利上げ観測。金利上昇波及に注意

イングランド銀行（BOE、英中銀）の金融政策委員会は3日、5対4の多数決で政策金利を0.25%ポイント引き上げ0.5%とすることを決定（4人は0.50%ポイント利上げを主張）。また、BOEが保有する英国債8,750億ポンドと社債200億ポンドについて満期償還金の再投資停止により残高削減を開始（社債は2023年末頃までに残高を解消）することを決定。政策金利が少なくとも1%に上昇した時点で経済状況に応じ国債の売却開始を検討することを確認。タカ派的と受け取られ、発表後に英金利とポンドは上昇しました。

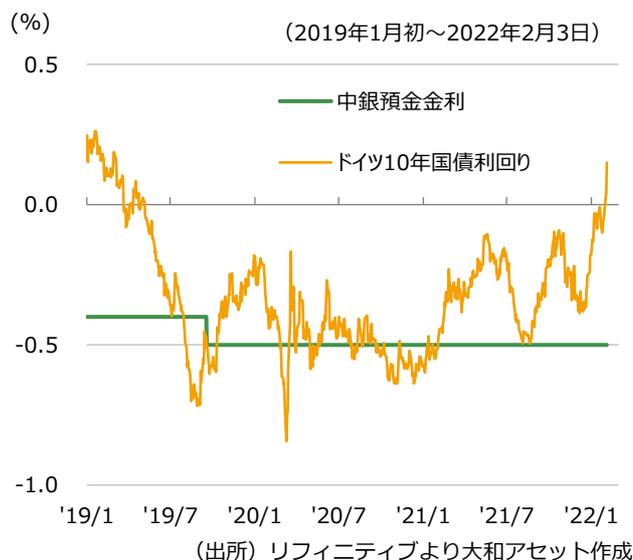
BOEの2月金融政策報告（中心的予測）は、エネルギーと貿易財価格の上昇によりインフレ率（消費者物価指数の前年同月比）が2月と3月には6%近くに上昇し、4月に約7.25%でピークに達すると予想。ただし、その後は経済成長の減速や供給制約の緩和による貿易財価格の低下などにより、インフレ率は2年後に目標の2%を少し上回る程度に低下し、3年後には目標を大きく下回ると予想しています。

インフレが持続する可能性がある間、BOEはタカ派姿勢を続けるでしょう。BOEは今後数カ月間に金融政策を緩やかに引き締めることが適切としており、追加利上げを行う可能性が高いと見ています。一方、ECB（欧州中央銀行）は現状の金融政策を維持しました。しかし、ラガルド総裁が必要に応じて政策手段を適宜調整する用意があるとし、年内の利上げを否定しなかったため、市場の利上げ観測が強まりユーロ圏の金利とユーロが急上昇しました。マイナス金利が続くとみられていたドイツなどの金利が上昇すると、米国などにも波及する可能性があるため今後の動向に注意する必要があります。

BOE政策金利と英国長期金利



ECB中銀預金金利とドイツ長期金利



当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント